

# 函館市医療・介護連携推進協議会 連携ルール作業部会

## 退院支援分科会 第8回会議 会議録（要旨）

### 1 日 時

令和3年3月2日（火） 19：00～20：15

### 2 場 所

函館市医師会病院 5階講堂

### 3 出席状況

メンバー：崎野副部会長，保坂副部会長，福島分科会長，高見メンバー（WEB参加），  
高橋正治郎メンバー，鈴木メンバー，奥山メンバー，岩城メンバー，  
高橋淳史メンバー，岩崎メンバー，高橋陽子メンバー，山石メンバー  
部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター 佐藤，近藤，甲谷，山田  
事務局：函館市地域包括ケア推進課 栗田主任主事

### 4 議 事

#### ○報告事項

- (1) 「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査分析結果
- (2) 「はこだて入退院支援連携ガイド」の研修について
- (3) 看取りのガイドについて

#### ○協議事項

- (1) 「はこだて療養支援のしおり」について

### 5 そ の 他

- (1) 次回の部会日程について

### 6 会議の内容

#### 栗田主任主事

ただいまから函館市医療介護連携推進協議会の連携ルール作業部会，退院支援分科会第8回会議を開催いたします。前回の会議でも確認しておりますが，この会議は原則公開により行いますのでご了承願います。

次に，第7回の会議録についてですが，事前に各メンバーの皆様に確認させていただきました。事務局の方には特に修正のご意見がございませんでしたので，原案通りで第7回会議録を確定させていただき，ホームページ上で公開させていただいております。

本日は恩村メンバーと、初参加予定でした社会医療法人仁生会西堀病院の加藤メンバーが所用により欠席となっております。なお、高見メンバーはWEBでの出席となっております。

それでは本日の資料の確認をさせていただきます。事前に会議次第1枚、資料1から3までの合計4部を送付しております。送付した資料がお手元がない方はいらっしゃいませんか。(なし)また、あらかじめ机上に座席表と出席者名簿を配布させていただいております。出席者名簿で一点修正がございました。加藤メンバーが急遽欠席となっておりますので、修正をお願いします。

次に、新メンバーのご紹介をさせていただきます。連携ルール作業部会副部会長の函館地域医療連携実務者協議会の亀谷様に代わりまして、函館地域医療連携実務者協議会、市立函館病院崎野輝彦様が就任しております。崎野様には、医療と介護の連携について現時点でお考えのことも含め、ご挨拶を頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。

### **崎野副部長**

皆様、おばんでございます。市立函館病院崎野と申します。医療・介護の関係性は、非常に大切だと思っています。私の方は病院勤めですので、介護の方は少々知識が乏しいわけですが、こういった会議に参加しまして、いろいろ勉強させていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

### **栗田主任主事**

崎野様ありがとうございます。

次に、幹事の交代がございましたのでご紹介させていただきます。医療・介護連携支援センターに人事異動がありまして、5月1日付で近藤様、1月1日付で山田様と甲谷様が配属になっております。それぞれ、ご挨拶を頂きたいと存じます。

まず近藤様よろしく申し上げます。

### **近藤幹事**

函館市医療・介護連携支援センターの看護師の近藤と申します。よろしくお願ひいたします。

### **栗田主任主事**

次に、山田様よろしく申し上げます。

### **山田幹事**

医療・介護連携支援センターに1月1日付で配属になりました山田と申します。前職は共愛会病院で病院相談員を9年半勤めさせていただきまして、この度ご縁がありましてセンターの方に配属になりました。退院支援分科会の担当になっておりますので、今後よろしくお願ひいたします。

## 栗田主任主事

ありがとうございました。続いて甲谷様よろしく申し上げます。

## 甲谷幹事

事務を担当しております甲谷です。よろしくお願いいたします。

## 栗田主任主事

甲谷様ありがとうございました。

本日の会議の議事の進行につきましては、皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは福島分科会長申し上げます。

## 福島分科会長

皆様、こんばんは。かなりご無沙汰でした。お元気でしたか。マスクで顔がよく見えませんが、お元気で集まることができたのかなと思っております。1年ぶりにはなるのですが、今まで皆さんで協議して医療・介護連携のための、例えば研修会ですとか、「はこだて療養支援のしおり」とか「入退院支援連携ガイド」などを作ってまいりまして、今日はその集大成といいますか、「こういうものができました」ということと、さらにこれを周知するためにどうしていったらいいかということとを協議していきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

それでは次第に従いまして議事を進めていきたいと思っております。

まず報告事項(1)「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケートの調査分析報告について、幹事の方からお願いいたします。

## 山田幹事

改めまして皆様よろしくお願いいたします。それでは報告事項(1)「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査分析結果についてご説明いたします。

まず、「はこだて入退院支援連携ガイド」(以下、ガイド)が運用を開始してから4年が経ちまして、このあとにお話いたしますが、今年「はこだて療養支援のしおり」(以下、しおり)の配布もごございます。そうしたなかでガイドとしおりを配布する目的、活用方法の違いについてはっきりさせないと、センターから配布されたものということで、混同されてしまう可能性も考えておりまして、やはりさらなる周知が必要と考えておりました。まずはガイドの方で、活用について見直しを行わせていただくために過去のアンケートを再分析いたしました。

資料1をご覧ください。こちらは過去3回、平成29年度、平成30年度、令和元年度に行った、「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査結果をまとめたものとなっております。調査結果のなかで、ガイドを見たことがあると回答した医療・介護関係者は60%~70%ぐらいで推移しているのですが、日常業務において、ガイドを活用

しているのは、20%弱という結果になっており、やや低い結果ですが、考えられる要因といたしましては、退院支援に日頃から関わっている方たちは、こういったガイドを使わなくても通常業務で行っているので、活用する必要がないという方もいらっしゃると思います。

アンケートの設問なのですが、「日常業務において活用しているか」となっているため、日常業務についての認識の違いによって、限定された回答の可能性があるというふうにも考えています。アンケートのコメントのなかでも、「日常業務に活用していないが研修で使っている」ですとか、「たまに見ることがある」等のコメントもありまして、また、入退院支援のガイドという性質上、活用する機会がない業種というの、やはり少なからずあると考えられます。以前の分科会においても、アンケートの取り方についてお話が出ておりましたので、アンケートの調査票についても見直しをする必要があるのではないかとということで、見直しをさせていただきました。

その見直しをかけたものが資料2になります。表側が今回見直しをかけたアンケート調査票(案)になりまして、一応比べていただくために前回分が裏側に印刷されております。今までのアンケートでよせられたご意見を参考にしまして、活用方法を選択式にさせていただき、日常業務という認識の違いによって回答が変わることがないようにいたしました。

ガイドについては入退院支援連携のマニュアルとして、医療・介護従事者の方たちに、日常業務で使う機会はなかったとしても、研修ですとか、何かあった際の確認等で使っただけならばセンターとしては考えております。活用方法についても改めて周知が必要と考えておりますので、設問の(3)に、センターが考えるガイドの活用法を設問の中に取り入れ、アンケートを通して少しでも周知できればと考えております。

今後については、入退院支援に関わりやすい業種に絞ってアンケートを出すことも検討が必要と考えております。この部分につきましては今後検討させていただいて、ご連絡させていただきたいと思っております。

報告事項(1)「はこだて入退院支援連携ガイド」に係わるアンケート調査分析結果についての説明は以上でございます。

## 福島分科会長

ありがとうございました。今の報告を聞いていただきまして、皆様の方からご意見とか、ご感想とかいただきたいなと思っております。

ガイドのアンケートを何年かやって、見直しを掛けてきました。さらに資料2のようなアンケート内容になるということと、アンケートを取る対象、同じような対象の方になっているのですが、アンケートを返していただく方たちの反応等もみたうえで、次からのアンケート用紙がこれでいいのかということも含めてご意見いただければと思います。

ケアマネからの回答が多かったようなので、どうでしょう。

## 高橋淳史メンバー

居宅介護支援事業所連絡協議会からまいりました高橋です。よろしく申し上げます。

アンケートの集計の部分で、回答率は上がっているのも注視するポイントであろうかと思ひますし、もう一つは使用する機会があるかないかというところだけは、これは単純に比較する必要はなくて、年々「ある」という回答率が上がってきているところは、着目するのにすごく値する部分だと思ひます。実際聞く話として、例えば新任のケアマネジャーが業務未経験で、ポンと1年目で入りますとなった時に、いろいろな業務を教えていく中で、いろいろな職種からあがってくるわけですが、以前はデイサービスに勤めていたとか、ヘルパーステーションに勤めていたという方がケアマネをやるとなった時に、こういった入退院支援の部分で、全く経験したことがないような人には、とてもわかりやすかったり、実際、初任者研修などで、ちょっとしたお土産みたくして渡したりすると、すごく喜ばれたりもしました。活用する機会がないというのは、周知がどんどん進んでいけば「ない」の回答が増えていくのだと思ひますが、それでもやはり感覚的に理解しているということと、こういったものが基本的に函館の標準様式だという、病院や居宅とのやりとりのマナーですとか、こういったことをお互い求めているのかを知るところの根幹になる部分では、今後も十分活用していけると思ひます。

改訂も都度やっていかなければ、古いものになって風化してしまうと、今まで何回も作られたけど、いつの間にか立ち消えたものと一緒だと思ひますので、そういう意味では最新版という形で発信していく必要はあるのかなと感じました。

新しいアンケートの調査票ですが、改訂するのは全然構わないですが、またこの何年かやってみて、必要があれば変えていくという風にしないと、比較ができなくなると思ひます。3年に1回でもいいですし、期限を区切らなくてもいいでしょうけども、柔軟な形で比較ができるような内容であればいいのかなと風に感じました。ありがとうございます。

## 福島分科会長

ありがとうございます。新人教育でプレゼンのように、こういうものがあるんですけど配ったというのは素晴らしい話だなと思ひて聞いていました。

WEBで参加いただいている高見先生、いかがでしたか。アンケートの結果に関して。

## 高見メンバー

今日はすみません。WEBの方で失礼しています。

アンケートの方はいいのではないのでしょうか。やはりいろいろ書くところが多いと書きづらいところもあるでしょうし、少ないところからチェックを入れていって、最後に記述式という形のアンケートの方が簡潔でいいかなと思ひました。

歯科に関しては訪問が主になっていて、実際にガイドを使う機会がなかったのですが、これからは歯科で訪問に行っている患者さんに関して、こういうことが必要になってくるだろうと感じています。とてもわかりやすいガイドになっていると思うので、少しずつ書き加えていくようにしていったほうがいいと思ひます。

## 福島分科会長

ありがとうございます。歯科の分野という言葉も出ましたし、リハビリの方はどうですか。

### 岩崎メンバー

リハビリは、職種的に使用するという立場になかなか立ちづらいというところも感じる場所は推察されます。見てはいると思うのですが、それをを用いる立場にはなかなかないだろうなというところの結果だと思しますので、確かに職種とか立場とかによつての結果の違いは出てくるのだろうなと思いました。

アンケートの内容は更新することで簡素化されるのはいいかなと思うのですが、簡素化しすぎて今度それを読み取る、分析するというところが、より綿密に見なければいけないというところがあると思うので、それが今後の課題ということかなと思うのですが、一つの結果としてのなかではよかったかなと思います。

### 福島分科会長

ありがとうございます。経年的にというか、やはり対象をどうするかという話も先ほどの報告にありましたが、今の高見先生と岩崎さんの話もありますので、今後アンケートを取る時には同じ対象の方々にとっていただきたいということと、やはりアンケートを通じて活用機会を増やしたいという想いも多分あるのかなと思いましたので、案の内容とは変わりましたが、このような方式でまたアンケートを取っていただこうかなということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。時期はいつ頃でしょうか。

### 山田幹事

時期は、しおりもこれから配布予定になっていますので、しおりとガイドを同時に11月～12月ぐらいに一度アンケートを取ろうかなと今のところ考えておりました。

### 福島分科会長

わかりました。ありがとうございます。他に何かご意見ございますか。

### 保坂副部会長

アンケートの中身の数字を見ると、いいか悪いかだけになってしまって、例えば退院支援の看護師やソーシャルワーカーが、実際このしおりを使ってみた場合の反応とか、有用性とか、そういうのがもう少し知りたいかなと。「使ってみてどうだったか」、この部分の声をもう少し拾った方がいいような気がします。アンケートのところに「何か見直しが必要と思われますか」と書いていても、何を見直せばいいかわからないというのが絶対あると思います。例えば付け足してほしいこととかも、もしかしたらあるかもしれないです。こういう文言があったほうがもっとわかりやすくなるのではないかと。でも結局このアンケートだけでいくと、「いいか悪いか」、「何回使ったか」しかない。居宅連協さんが一番

回答率があるなら、ここにターゲットをあてて、使ってみてどうだったのかと、もう一步踏み込んだ質問とか、そういうのもあると中身がもう少し充実していくのかな。これを次のアンケートの時に盛り込んで、ターゲットを作って、ターゲットにふって回答を見てもいいのかなという風には思いました。

### 福島分科会長

ありがとうございます。なるほどと思いました。先ほど高橋（淳史）さんの話の中にもありましたとおり、これを見た時にいろいろ感想があると思います。「これがわかった」、「こんなことだったんだ」ということ。ただ、「ここはどうなんだろう」と少し疑問になることもあるのかなと思いましたが、この項目の中に「使ってどうでしたか」と盛り込んではどうでしょうか。

### 山田幹事

私も、聞いていてそのとおりだなと思いましたが、そういったことも盛り込んだものを、再度検討させていただきたいと思えます。

### 福島分科会長

では、そのような内容を盛り込むということをお願いします。他にご意見がありませんか。(なし)

では、次の議事に進めていきたいと思えます。報告事項（2）はこだて入退院支援連携ガイドを活用した研修について、説明をお願いします。

### 山田幹事

報告事項（2）「はこだて入退院支援連携ガイド」を活用した研修について、ご報告いたします。

今年度も研修を計画しておりましたが、昨今の新型コロナウイルスの状況もあり、やむを得ず今年度は中止とさせていただきました。来年度におきましても、この研修がグループワークを中心とした内容のため動画等の代替案が難しく、現状では実施するのは難しいと考えております。ただ、新型コロナウイルスが落ち着く状況がみられた時には、改めて開催に向けて皆様と検討できればと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。

また、昨年の分科会でお話があった、情報共有ツール作業部会との合同の研修会についてですが、情報共有ツール作業部会に確認したところ、同じ入退院支援の場面でのグループワーク研修ではありますが、こちらは一つの職種に向けての研修に対して、こちらは多職種による研修ということで、一つの職種でのディスカッション、多職種でのディスカッションとそれぞれの目的が異なり、更に情報共有ツール作業部会の方は実際に「はこだて医療・介護連携サマリー」を書いてもらうという内容も含まれているため、現状では合同での開催は難しいということで、今後、何かしらスタイルを変えて開催する時期がきまし

たら、改めて合同開催を検討していったらと、お返事がございましたのでその点もご報告させていただきます。

報告事項(2)「はこだて入退院支援連携ガイド」を活用した研修についての説明は、以上でございます。

### 福島分科会長

平成30年度最初の研修会、令和元年度に2回目があって、2回目の時には情報共有ツール作業部会と合同の開催を、ここの会場でやらせていただきました。この時に研修の体制や参集者の違いもあるということで、次回からはそれぞれの開催にという話だったのですが、まずその前に研修会がグループワークを中心とした開催、今後もそういう体系というかやり方でいかどうか。あと内容、進め方に関してはどうだったか、反省も含めまして、こんな風にした方がいいのではないかというようなご意見もあればと思っています。

では、実際に事例提供していただいた奥山さん、いかがですか。

### 奥山メンバー

奥山です。よろしくお願ひします。実際の事例提供して、あの形でグループワークは必須だと思うので、コロナの状況が落ち着かないとグループワークはできないのかなと思っています。2回ほど事例提供させてもらいましたが、やはりメンバー的にも集まるのは同じメンバーという形に2回目で既になってきていたので、今度やる時にはまた違う方法でもっといろんな人が来られるような体制を作っていかなければならないなと思っていました。実際、退院支援の看護師自体も少ないため、どうしても同じメンバーにはなるので、そのあたりも広くみんなに知れ渡って、学んでもらえるような場を設けていけたらいいなと思っています。

### 福島分科会長

ありがとうございました。2年やってみて、なんとなく同じメンバーが半分ぐらいだったかなと記憶しています。2回の研修のあと、「よかったな」とか「あれがあったからこういう電話できてるんです」とかその後の変化というか、ご自身のことも含めて、感想があればと思うのですが。

訪問看護の高橋さん、どうですか。

### 高橋陽子メンバー

2回研修会させていただいて、参加している方が同じような方なので、内容的にも同じくなくなってしまうというところはあるのかなと。さっき奥山さんが仰ったように違う方も含めていけたらいいのかなと思うのですが、なかなかこの状況では集まれないので、WEBになってしまうと、ZoomとかTeamsとかでもグループワーク的なことは上手くやればできると思います。しかし、そのなかで話して行って、まとめて、それを皆さんで発表するというのは大変なのかなと思いました。



あと、ガイドの中には、ヘルパーさんは入っていないですもんね。ただ、私が思うのは、今の話と少し違うのですが、ガイドをヘルパーさんたちにも広めて、個人参加しなくても広めていただくと、必ず退院支援、退院前カンファレンスの時には、訪問介護を利用する患者さんの場合はヘルパーさんも来られるので、そういう時にガイドがあると、こういう流れでお家に帰って、こういう関わりをみんなでするんだというのを、ヘルパーさんたちにもわかってもらえるといいのかなと思っています。

あとは、頑張ればWEBでも研修会はできるのかなと少し思います。

一度、訪看連協でグループワーク100人超集まって、Zoomで全部やりましたが、5～6人のグループ別に分けて、それぞれで話をして、最後にまとめてみんなそれぞれが代表の方を最初に決めておいて、そのなかで話し合ったことを発表しあうということができたので、上手くやると出来そうな気はします。以上です。

### 保坂副部長

今の時代オンラインで、参加する人がどんどん増えてきても、限りなくオンラインで出来て、グループセッションにしたかったら、パーンと分かればグループワークが出来て、もう一回部屋に戻りたいとなったら、戻ることもできる。管理の問題とかいろいろあると思うが、やるかやらないか、やらないならやらないでいいと思うんですが、やるというのであれば、方法を探る。どういう風にやればいいのか、大規模でやらなくても例えば地域包括支援センターの圏域単位でガイドの研修をやるかといったら、そんなに人数が集まらなくても、WEBでやるか、もしくは現地とWEBと両方で合わせてやるか、そういうこともできると思います。だから、そこをどう考えるかという風になってくるのではないかと思います。今年もやりませんとなったら、ガイドの研修もそうですが、情報共有ツールだって、全部研修が流れてしまうと思います。大規模研修も全部流れてしまうと思います。ですから、それを事業計画としてやるのかやらないのかということきちんと考えなければならぬのではないかと思います。そうしないと、せっかく作ったものが停滞してしまうのではないかと、すごく危惧しているのです。訪看連協はやれるよねということになると思うのですが、皆さんどうですか。

### 福島分科会長

いかがでしょうか。他の皆様、この1年間で、おそらく研修でWEB開催もあったかと思うのですが。

### 高橋正治郎メンバー

薬剤師会の高橋です。研修に関しては、特別、私のほうからはなく、この1年、2年は、皆さんにお伺いしたいことはなかったのですが、今、伺って良いですか。

アンケートの通り、回答率は上がっているのですが、残念ながら、入退院支援連携ガイドを活用したという回答が0件で、実際、入退院支援に関わる機会がなくて、入院時に、「病院の薬局から何のお薬をその患者さんはもらっていますか」、という確認のある所とな

い所があったりとか、実際、退院された時に、「先生の指示書を見ると薬が出されることになっているのに、実際には手元にお薬がなかった」とか、それから、先生が指示した容量と違う容量でお薬が出ていたりとか、そういったトラブルはあるのです。ただ、それは入院支援、退院支援とかという話と全く違う話だと思っています。

実際、入退院支援に関わっている皆さんが、薬剤師に関わってほしいという機会がありますか。

### 福島分科会長

退院支援の中で、薬管理がかなりの課題になっていて、そうすると退院支援のカンファレンスする時に、やはり薬剤師さんに「家に帰ってから、どのように支援してもらえるのだろうね」ということでやり取りすることもあります。多分、お声掛けして、そこに来ていただくことは難しいのかなということで、お声掛けしなかったのかもしれませんが、実際はありますよね。

### 佐藤幹事

退院カンファレンスとかでもありますよね。

### 鈴木メンバー

在宅ケア研究会の鈴木です。私は今、入院というか外来の在宅調査をしているのですが、結構、調剤薬局とやり取りすることが多いです。どうしても認知症だとか高齢でお薬の管理ができないとか、もちろん訪問看護の調整もするのですが、調剤薬局に連絡を取って、やり取りをしているというケースがあります。私のほうでもいろんな調剤薬局からの報告書を取りまとめているのですが、件数的には、ここ最近、コロナ禍でお家で過ごしたいといった患者さんも増えているので、薬局の方が関わってくれていることは多いですし、実際に退院のカンファレンスに参加しているかどうかまでは分からないのですが、関わるケースは増えていると思います。

### 奥山メンバー

実際、調剤薬局に来ていただいて、幾度となく、鑑別していただいたというケースはあります。今、中央病院のほうでは、コロナ禍で家で過ごしたいという方がほとんどなので、そうするとターミナルの方が自宅で点滴をする調整が多いのです。函館市内の調剤薬局で、この間も何件か連絡を取らせていただいたのですが、点滴を直接、患者さんのご自宅に持って行ってもらえる調剤薬局は少なく、それで調査をさせてもらったのです。麻薬の調整などで調査中なのですが、ゆくゆくは、病院として調剤薬局とのやり取りで、うちとしてもマニュアル的なものを作っていきたいなと思って目指しているところです。これからもっと、退院前カンファレンスに調剤薬局に来てもらう機会が増えるのではないかなと思います。

### 高橋正治郎メンバー

ありがとうございます。実際に、参加されている中央病院、五稜郭病院の近隣の薬局が中心だと思うのですが、そういったところを対象に退院支援の関わり方みたいなものをアンケート等で探してみたいと思う次第です。退院前カンファレンスへ参加できない理由も時間的な問題もあったんですが、コロナ禍でこうやってオンラインで会議に参加することもできるのかなと思いました。

### 福島分科会長

退院前カンファレンスもオンラインで参加できたら良いということでしょうか。

### 高橋正治郎メンバー

やれたらきっと参加しやすくなると思います。

### 福島分科会長

今年は、そうですね。

### 保坂副部会長

個人情報に関係がありますよね。個人情報がどうのこうのという病院があったのですよね。市内ではないのですが、市外から帰ってくるといった時にボンと帰されると困るから、その市外の病院とこちらの受ける側とで、WEBでカンファレンスをしましょうと言った時に、そっちの病院の規律で個人情報がどうのこうのとなるということでしたが、時代としてこれだけZoomでやり取りするということも主流となっているのならば、退院前カンファレンスとかに、すごく狭い所に5人とか集まっていたら大変だから、そういうシステムとかを取り入れていったら良いのではないかと思います。

薬剤師の力は、絶対に必要だと思うのです。在宅に帰って、薬を飲めると思っていた患者さんが、実は飲めなかったというケースは沢山あるじゃないですか。突然、処方された中から、「この薬剤を抜いてください」と医師から言われた時に、わざわざ私たちの場合は薬の本を持って行って抜かなきゃならない時もあるじゃないですか。それよりも薬剤師が行って、抜いてもらって、説明してもらえるよう、連携が図れるようなシステムを構築していかないと、これからは、何でも訪問看護師、ヘルパーという訳にはいかないと思うのです。薬剤師の活躍の場は、これから絶対に出てくるので、逆に薬剤師会の中で、例えば、先ほど奥山さんが言った、点滴の処方や麻薬管理などで、やってくれる所とやってくれない所があるとか、その辺のところをどうするか考えていただければ、もっと広がるのではないのでしょうか。

### 高橋正治郎メンバー

ありがとうございます。実際に振り返ってみると、僕もやっていることだったのだな。それが、退院支援とは思っていなかったのだから、それを理解すると退院支援に関わっている

のだなと感じる薬剤師は一定数いるのかなと思います。ありがとうございます。

### 福島分科会長

良かったです。いろんな職種の方で話ことができました。

研修会もやらないという話もあったのですが、WEBの開催でということで、もしかしたらやれるのではないかという皆さんの熱い思いもありましたので、どうでしょう。検討するというにしてもよろしいでしょうか。

### 佐藤幹事

ありがとうございます。研修会をやるか、やらないかという判断は確定している訳ではなくて、できれば、リアルに集まって、顔を合わせて開催できるのがベストだろうというのが、うちのセンターで考えているところです今の段階で集まるのが無理かどうかという判断は難しいので、もう少し状況を見て検討していければと思っております。ただ、この状況が長く続くようでしたら、いつまでもリアルにこだわっていく訳にはいかないと思いますので、今、お話をいただいたような手法も検討したいと思います。あとは、このTeamsの機能を私たちが良いように活かせるかどうか、このTeamsの契約状況がどうなっているかということも内部で確認が必要になりますが、その辺りも参考にさせていただきながら検討して参りたいと思います。また、先ほどの高橋正治郎様のお話、前職の話で申し訳ないのですが、退院支援カンファレンスに調剤薬局が参加してくれたことが何度ありました。それは、実は、おおぞら薬局でした。これからもご活躍を期待されている所だと思いますので、よろしく願います。

### 福島分科会長

ありがとうございました。それでは、報告事項（2）に関して、今、いろいろとご意見がありましたので、検討していただくということで、お願いいたします。

それでは、報告事項（3）看取りのガイドについて、幹事から説明願います。

### 山田幹事

報告事項の（3）看取りのガイドについて、ご報告いたします。

「はこだて療養支援のしおり」が完成いたしましたので、予定では次に看取りのガイドの作成を考えております。

看取りのガイドにつきましては、改めてコアメンバーを選出させていただき、作成していきたいと考えておりますが、皆様に活用していただくものを作成するには、何度も協議を重ねていかなければならず、お時間がかかると思われれます。ご意見をいただくことも多くあると思いますので、その際はよろしく願います。

報告事項（3）看取りのガイドについての説明は、以上でございます。

### 福島分科会長

ありがとうございます。「はこだて療養支援のしおり」は出来たのですが、今後の予定では、看取りのガイドを検討していくということで、進めていくのかなというところでした。看取りのガイドに関しては、保坂さんから前々回の会議で「どんな形かな」という話があったと思います。一応、コアメンバーでも何度もこの話になって、どの時期にターゲットを持っていくのかとか、これは誰のためのものなのかを協議していたと思います。その辺を今後、協議して進めていきたいと思います。

この看取りガイドに関しまして、何かご意見あればお願いします。(なし)

報告事項(3)に関しては以上にて終了し、次の議事に進めたいと思います。

それでは、協議事項に入ります。協議事項(1)「はこだて療養支援のしおり」の配布について幹事から説明願います。

## 山田幹事

協議事項の(1)「はこだて療養支援のしおり」の配布についてご説明いたします。

資料3をご覧ください。大変遅くなりましたが、しおりが完成いたしました。昨年の分科会では、昨年の4月に配布できればとお伝えしていましたが、関係各所への確認に時間がかかり、ようやく12月の親会議(函館市医療・介護連携推進協議会 令和2年度第1回会議)で承認されました。各メンバーには12月にメールで最終確認のご案内をさせていただき、特に修正等のご意見がございませんでしたので、確定させていただきました。

しおりは様々な制度・サービスが載ったものになっていますので、メインは医療・介護従事者が患者・利用者との面談時等日常業務に活用でき、研修や確認等のマニュアルとしても活用していただければと考えておりますが、内容としては市民の方にも活用していただけるものになっております。

今後はガイドのアンケートと同時に1年に一度、周知も兼ねたアンケートをさせていただき、見直しをかけてより良いものを作っていければと思っております。

ホームページへの掲載、各事業所への配布につきましては、この分科会后、今月中にさせていただきます。

配布方法としては、冊子にしての配布と、FAXかメールにてダウンロードのおしらせをするという形の2パターンを想定しております。

冊子の配布先は各部会・分科会メンバー、協力していただいた機関(各団体、地域包括支援センター)には配布予定です。

市内全ての医療・介護関係機関に冊子を配布する形が一番いいのですが、予算の関係等もあり、そういうわけにもいきません。

しおりをこれから活用していただくのにあたり、センターが予定している機関等の他にどこに冊子を配布していけばいいか。どのような周知活動を行っていけばいいか。皆様からご意見をお聞かせいただければと考えております。

協議事項(1)「はこだて療養支援のしおり」の配布についての説明は、以上でございます。

## 福島分科会長

ありがとうございます。いわゆる日常の療養支援ということで、「はこだて療養支援のしおり」ができました。皆様の手元に大きいのがいっていると思います。中身を作るときに医療、介護それぞれの方がどんなことを知りたいのかアンケートを取って、その結果をもとに要所要所に散りばめており、金額的などころや制度的などころといった痒い所に手が届くような形になっております。ぜひこれを使っていただきたいと思っているのですが、今話があったとおり、この分科会のメンバーですとか、他の部会の方とか、あるいはこれを作成するにあたり、いろんな方からご意見をいただいているので、その方々には配布する予定にはなっているようなのですが、作った趣旨を考えた時に、「ここには配布したほうが良いのではないか」というご意見がもしあればお聞きしたいと。

医療、介護とにかく全部にというのが一番良いのですが、予算の都合もあってそれは難しいということなのです。具体的にどうでしょう。ここに載っている配布先以外に、想定したほうが良いかなというところがあれば。事務局から何かありますか。

## 山田幹事

これについては、センターではなくあくまでも私個人の考えとして聞いていただきたいのですが、しおりは実際、市民の方でも使えるものなので、例えば市役所や地域包括支援センターに置いて、市民の方に手を取っていただいて、活用していただくというのも一つの手かなと思います。あとは、患者さんや利用者さんに直接対応していただく方ですね。私自身が前職、病院の相談員だったので、様々な制度を活用しなければならなくて、でも全ての制度が把握できているのかということ、そうではないので、相談があった時に、その方に合うような制度はないかなと調べたりするのですが、それがこのしおりには載っているの、そういったところでは活用できるかなと思っています。

あとは、前の病院がそうだったからという訳ではないのですが、制度に困った時には、とりあえず相談員に話がくるという形だったので、これがあると、たまたま在宅でヘルパーさんが聞かれた時などに、後でちょっと調べて、次の訪問の時に「こういうものがあるよ」と知らせることもできます。それでは実際どういったところであれば良いのかというのは、全部に本当は置ければ良いのですが、そういう訳にもいかないの、皆様のご意見をいただいて、配布をしたいと考えています。

## 福島分科会長

事務局からの案もあるのですが、それ以外ですね。公的な機関、市役所とか相談機関、地域包括支援センターのほか、介護と関係のない分野でも知っていた方が良い相談分野、障がいのほうの相談分野とか事業所にあったほうが良いのかなと思ったのですが、山石さん、やはり施設関係もあったほうが良いですね。

## 山石メンバー

私、これを拝見させていただいた時に、今、山田さんがおっしゃったように、うちの施

設の場合は、相談員が窓口なのですが、もちろん何でもやっています。詳しくやっているのですが、とりこぼしの部分があるので、そういう時のマニュアル的なものということでは、活用できるのではないかなと思います。あと、施設としては、わりとご家族の方が入所の相談する時に、実はまだ地域の事業所とかを経験していない方が来る時もあります。どこに行けば良いのだろうとわからなくて施設に来るといふこともありますし、そういう時には、これを見て、こういうところの相談窓口がありますよということでお知らせすることもできるなど、これを見て思っていました。

どこに配るかということですが、施設は、こういうものがあればすごく良いなと感じています。配布先ですが、基本的にどのような配布方法をするかということになりますと、インターネットが進化していますので、ダウンロードして青字をクリックするとリンクに飛んだりというのは非常に僕らとしては便利です。一回一回探してというよりは、メモリーさせておいて、そこから飛んでそこを見るという方法がある程度定着しているのかなというのがありますので、ダウンロードで良いのかなというのがあります。

ただ、市民にとった時に、こういうサービスを利用したい方が、そのツールを持っているかという、さほど持っていないのではないのかなと思います。そうすると市のほうで出している介護の手引書のような配布方法しかないのかなと。でもそうすると、膨大な予算と数が掛かるのだらうなと思っていたのですが、この人は必要だなという人が情報の入手ツールがない人が多いです。うちでは、面会の関係で、Zoomを使ったりしているのですが、やはり高齢のご主人が施設に入って奥さんがやるとなると、スマホを持っていないとかあります。時代の流行についていけない方もいますので、そういう方にどういふ風にこういうものがあることを伝えていくのかを考えていかなければいけないのかなと思いました。

## 福島分科会長

ありがとうございます。そうですね。スマホからダウンロードすることが難しい市民というか、高齢者でスマホを使っている割合、70歳以上で10%に届かないのですよね。だから家族というか配偶者がこれを手にするのは難しい。相談機関からの情報提供となると、相談員にこれが届いているのが良いのかなという気はします。

岩城さんどうですか。私たちはこの分科会のメンバーだからこういうものがあると分かるのですが、これを知らない人たち、相談員さんたちに配布する方法として、どういった方法がありますか。

## 岩城メンバー

ソーシャルワーカー協会の岩城です。まずはこのしおり、いろんな場で意見や提案が出たものを、こんな形にしてくださって、本当にお疲れ様です。ありがとうございますというのをぜひお伝えしたいと思っていました。

今回のしおりの中を見た時に、医療に携わるスタッフや介護に携わるスタッフ、市民の方、それぞれが分からないということピンポイントで埋めていく良いツールになるかな

と思うのと、あとは皆が同じものを見ながら一緒に確認し合えるものになっているので、活用しやすいものになっているのではないかなと思っています。

ソーシャルワーカー協会のアンケートというのも、今までのガイドは、日常場面で活用することは少なかったのですが、しおりだと活用の場面が違ってくるのかなと思って聞いていました。今お話で出ていた、せっかく出来たものをどういったところに配置して、普及していくかというところなのですが、今、会議に出られている皆さんの所属、団体を通すと、最低限必要なところには行き渡るのかなと思うのですが、それを更に市民の方だとか、場合によっては精神保健分野に携わるスタッフとなると、パッと浮かんだのが、保健センターはどうかと思っていて、私だけかもしれないですが、外勤に行くと保健センターの1階のラックを見たりだとか、何か新しいチラシが出ていないかなと。市役所の2階のラックも、何か情報が変わっていないかなと私はよく見るのですが、もしかしたらあそこのパンフレットとかラックを市民の方だけではなくて、外勤の流れで職員が見ているということもあるのではないかなと思うのです。そういった時に冊子で置くというパターンもあると思いますし、こういったものが出来ていますよというチラシを置くパターンもあると思うのですが、そうするとまた違う職業の方が目にされたりとか、持ち帰って所属の方に「こんなのが来ていたよ」とか、「この間案内で来ていたのは、これだよ」という風にまた少し広がるのかなと思って聞いていました。私だけですかね。保健センターで、ラックを見たりするのは。

### 福島分科会長

ありがとうございます。私も行きます。今、チラシという言葉がありました。このしおり1冊を沢山の方に配るのは難しいですが、ダイジェスト版のような、簡単に表裏1枚のチラシをあちこちに置くという感じにするというのも方法かなと思いますね。良いですね。どうですかね。

### 高橋正治郎メンバー

すみません。ちなみにですが、予算の関係で全ての人に冊子を配るのは難しく、チラシを置くという案なのですが、例えばそのチラシの中に返信用封筒や切手を入れて、それをセンターへ送ったら冊子をご自宅に送付するみたいなことは可能なのでしょうか。

このしおり、そもそもどこにあるのかが分からないのですが、必要な人だったらお金は掛かるけれど、確実にしおりは手元にくると思ひまして。

### 福島分科会長

だんだん普及してきて、市民全体に教えたいな、周知したいなとなれば、やはりそういう方法もありでしょうか。

### 佐藤幹事

ご意見ありがとうございます。当センターとして優先したいことは、医療・介護の関係



者の皆様とっております。その上で、少し余力が出てきたら、だいたい皆さんに行き渡ったかな、必要などころに行き渡ったかなとなりましたら、市民の皆さんにというところは検討していきたいと思っております。ただ、返信用封筒を付けてではなくて、センターが返信用封筒を付けてということなのか、それとも市民の方が返信用封筒や切手を付けてということでしょうか。

#### 高橋正治郎メンバー

予算の関係というのが封筒代や切手代というのであれば、そんなに高いものではないので、負担していただいておりますという流れが現実的なのではないかなと思っております。

#### 佐藤幹事

ありがとうございます。イメージが少しつかめなくて申し訳ございません。初版は、今年度は、予算の中ですべてと思っておりますが、次年度の予算で、増刷等もできると思っておりますので、また少しずついろんな所に配布出来るように検討していきたいと思っております。

#### 福島分科会長

では、崎野さん、いかがですか。毎回、このような感じで会議を進めているのですが、どうでしょうか。

#### 崎野副部長

今日初めて会議に参加させていただきまして、今の配布の方法について言いますと、一般市民にいきなり配布するというのは、難しいのかなと思っております。お金も手間も掛かりますし、いきなりは無理なのかなと思っておりました。あと、例えば函病の職員に配布するとなると、私にメールを送ってもらえますと、その関係する部署にメールを送り返して、各自各々紙ベースにしてくださいですか、見てくださいですかできるかと思っております。

あと今日、初めて会議に出席させていただいて、皆さんよく知識のある方だなと改めて感じ取ることができましたし、また、いろいろと考えているのだなと感じ取ることができました。私も冒頭、お話をさせていただきましたとおり、介護の方とか全然、無知でありまして、これからいろいろと勉強させていただきまして、会議に出席させていただく度に皆さんのご意見をお聞きしたり、私の方からも何か発信できれば良いのかなと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。以上でございます。

#### 福島分科会長

ありがとうございます。それでは、今のしおりの配布、周知先ということで、いろいろとご意見をいただいていたのですが、その他に何かご意見ありませんか。

高見先生いかがでしょうか。いきなり振ってすみません。

#### 高見メンバー

いきなり大勢の方にとというのは大変なことでしょうから、まず大事なところ、専門の方から配布を始めて、だんだんと市民の方々にもという段階になった時に町会の方にも使えるでしょうし、こちらから少しずつ広めていくのが良いのかなと感じました。以上です。

### 福島分科会長

ありがとうございました。町会というお話がありました。

### 保坂副部長

現段階でセンターが医療・介護関係者にとという話であれば、急性期病院、在宅チームのメンバー、尚且つ、一番大事なのは地域包括支援センターだと思うので、地域包括支援センターにふれるだけふって、そこで、コロナが落ち着いてきたら、市民向けにこういうのをプレゼンしていければ、町会単位でプレゼンしたり、地域包括支援センターの圏域単位でプレゼンしていったりすれば、「それでは私に1冊ちょうだい」という風につながっていくのではないかなと思います。まずは、足元からやっていくということでしょうかね。それが一番良いかと思います。

### 福島分科会長

ありがとうございます。

皆さんから沢山の意見がいただけましたので、それを参考に配布のほうを進めていくということで、その時に今後の周知先が決定した時に、配布開始するのは、いつ頃という風になりますか。

### 山田幹事

3月中旬には、もう形も出来上がっておりますので、冊子として、あとメールですか、チラシにしてですか、その準備さえ整えれば、すぐにできますので、3月中旬から遅くでも今年度中にはと考えております。

### 鈴木メンバー

どの位の部数とか何か決まっているのですか。うちだったら何も配っていただかなくても、こちらのほうで1部あれば、ダウンロードして、退院サポートのほうに活用できる内容を自分たちで出すこともできるので、そんなに予算を掛けなくても、ある程度、こういうメンバーであれば、自分たちでダウンロードして、違う所にきちんと予算を使うという風にしたいほうが良いのではないかなと思うのですが。

### 山田幹事

市内の病院、施設へ全部となると膨大な数になるので、関係者のところには、まずは1部ずつということで。それ以外にプラスαで施設さんとか、病院もそうですけれど、この1冊届けば、伝わっていくとは思いますが、冊子で配ったほうが良いのか、チラシでも

大丈夫なのかというところを更に検討していきたいと考えております。ありがとうございます。

### 福島分科会長

少なくとも確定はしているので、データとしては、春のうちには皆さんに届くと思われ  
ます。その後の反応とか各機関に周知、地域包括支援センターであれば、多分私から部会  
の勉強会へ発信して、それぞれの所でダウンロードしてくださいということから始まり、  
何でこれが出来たのかの説明や使い方の説明とか、あと自分たちのところだけではなくて、  
関係する介護関係のところへも紹介するというところまでやることになると思われ  
ます。多分、皆さんもそういう感じで、つながっている方々に広めていただけるのではないかと  
期待しております。

それでは、協議事項は以上というので、次回の部会について、幹事から説明お願いしま  
す。

### 山田幹事

次回の部会は、皆様にお伺いをさせていただく案件が出てまいりました時に、随時、改  
めて日程等を各メンバーの方々にお伺いして開催しようと考えておりますので、ご了承願  
います。

### 福島分科会長

最後に、全体を通して何かご意見・ご質問等はございませんか。

### 高橋正治郎メンバー

すみません。しおりの25ページの急変時というところで、夜間の急病センターの診療  
時間なのですが、4月1日から30分短縮になります。その修正点があります。

### 佐藤幹事

ありがとうございます。急病センターにも確認させていただいたうえで訂正させてい  
ただきます。

### 福島分科会長

ありがとうございます。それでは、他になれば、全ての議事が終了しましたので、進  
行を事務局にお返しします。

### 栗田主任主事

福島分科会長、どうもありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の連携ルール作業部会  
退院支援分科会の第8回会議を終了いたします。皆様お疲れさまでした。